vinetur

# 300超のワイナリーが参加、国際展開を目指す「Madrid Top Wine by Peñín」初開催

2027年版Peñín Guideで90～100点を獲得した1,700銘柄に出展を限定

2026年11月17日（火）




スペインの首都で開かれた見本市「Madrid Top Wine by Peñín 2026」には、300を超えるワイナリーと1,700銘柄のワインが参加した。主催者によると、品質を選考の最重要基準に据えたまま、国際展開を一段と進める段階に入ったという。

イベントは11月16日（月）、17日（火）にIFEMA Madridで開催され、「Madrid Top Wine by Peñín」の名称では初の開催となった。マドリード州政府が後援し、プレミアムワインの生産と、業界のビジネス拠点としてのマドリードの役割を支援する姿勢を示した。

見本市にはワイナリー、流通業者、バイヤー、ソムリエなど、業界関係者が一堂に会した。主催者によると、出展されたワインはすべて、スペインでよく知られたワイン評価書の一つである2027年版Peñín Guideで90～100点を獲得していた。この条件によって、高評価をすでに得たワインに参加を限定し、ほかの業界見本市との差別化を図るという。

Peñínの最高経営責任者、イネス・サトルステギ氏は、名称を刷新した見本市について、品質だけを選考基準としながら、スペイン国外での存在感を高めることが狙いだと語った。同社の戦略は、スペインワインを国内向けに紹介する場としてだけでなく、海外の生産者やバイヤーが集う拠点としてマドリードを位置づける、より広範な取り組みを反映している。

開会式には、マドリード州政府の環境・農業・内務担当大臣、ホルヘ・ロドリゴ氏が出席した。主催者が発表したコメントで同氏は、この見本市がワイン産業の強化や商業面での発展を後押しし、業界関係者の接点を長期的なビジネス関係につなげる可能性があると述べた。

州政府はまた、地元産ワインの生産にも光を当てた。D.O. Vinos de Madridのワインには見本市内に専用の公式展示スペースが設けられ、15の小規模生産者も小規模なプロジェクトを業界関係者に紹介した。大規模で知名度の高いスペインの産地に注目が集まりやすい市場で、地元ワイナリーの存在感を高めようとするマドリード州政府の取り組みの一環だ。

主催者は、見本市の国際色も強調した。ドイツ、アルゼンチン、米国、フランス、ジョージア、ポルトガルのワイナリーが参加し、これまでスペインのプレミアムワインを主な対象としてきたイベントに国境を越えた広がりをもたらした。国内外の生産者が参加するこの構成は、商業面と専門性の両面で見本市の対象範囲を広げるという新たな開催形式の目標の一つだ。

業界関係者向けのプログラムでは、試飲会や討論会が行われた。11月16日（月）には、リオハ、バレンシア、カンポ・デ・ボルハ、カバ、エル・イエロ、テラ・アルタの各統制委員会と、ワイングループのZamora Companyが主導する7つの試飲会が予定された。各地域やスタイル、生産者に焦点を当て、参加者に詳しく知ってもらうことを目的とした。

11月17日（火）は、マドリード産ワインとスペインワインの国際的な評価に焦点を移した。D.O. Vinos de Madridが企画する催しに加え、スペインの優れたワインが海外でより高い評価を築く方法をテーマにしたパネル討論が行われた。

「スペインの優れたワインで国際的な名声を築く」と題した討論会は、マスター・オブ・ワインのペドロ・バジェステロス氏が司会を務めた。登壇者は、Juvé & Camps Prime Brandsの最高経営責任者メリチェル・ジュベ氏、Grupo Alma Carraovejasの最高経営責任者ペドロ・ルイス・アラゴネセス氏、Círculo Fortuny会長のシャンドラ・ファルコ氏、そしてサトルステギ氏。スペインのワイン生産者が直面する中心的な課題の一つ、すなわち高い品質を示す実績を、国際的なブランド認知度と価格競争力の向上につなげる方法が議論された。

スペインは世界有数のワイン生産国だが、特にプレミアムカテゴリーでは、利益率や世界市場での地位を高める必要性に長年直面してきた。Madrid Top Wine by Peñínのようなイベントは、海外市場での販売や評判を左右する輸入業者、流通業者、その他の意思決定者にワイナリーが接点を持つ機会を提供することを目指している。高評価のワインを一堂に集めることで、幅広い消費者向け展示会ではなく、厳選された品ぞろえを求める業界関係者にとって、より有用な場にしようとしている。

主催者は、マドリードにとって見本市が地域経済にもたらす役割にも期待を寄せている。同州はスペイン最大のワイン生産地ではないものの、交通、商取引、イベント開催の拠点として優位性がある。首都で開催することで、スペイン各地や海外から生産者を集めると同時に、バイヤーやメディ

アが参加しやすくなる。

Madrid Top Wine by Peñínの主催者は、ワインビジネスや専門家による推奨、品質の高いワインのプロモーションの拠点として、マドリードの地位を確立することがイベントの狙いだと述べた。2027年の開催は同年11月29、30日に、再びIFEMA Madridで予定されている。